



# 2014 Akita Prefectural University Overseas Study Tour University of Guam's English Adventure Program



## グアム大学 夏期語学研修 報告集

2014年9月7日～9月21日





## 巻頭言

### はじめてのアメリカ

秋田県立大学 国際交流室長 小嶋 郁夫

1989年の秋、テキサス州ヒューストンで開かれた学会に参加するためにアメリカをはじめて訪れました。学会後に当時の仕事の関係で、ペンシルバニア州フィラデルフィア郊外にあった製薬会社の研究所に立ち寄り、そのあと、当日の宿泊予定のバージニア州ノーフォークに向かいました。

到着したフィラデルフィア国際空港は長蛇の列で大混雑。ハリケーンが東部地域に近づいて来て殆どの便が欠航しており、チェックインカウンターの女性からは、事務的に“Your freight is cancelled.”と答えが返ってきました。

ノーフォークのホテルを取り消し、空港近くで一泊して翌日の便で目的地に向かう、などという芸当は、はじめてのアメリカでは無理な話。困り果てて、たまたま尋ねた案内係の若い女性がいろいろと調べてくれて、ノーフォークならバスで行けると教えてくれました。そこで、ダウンタウンのバスターミナルに戻り、グレイハウンドと呼ばれる長距離バスに乗ることにしました。乗車券に大きな文字で、“Not Good for Transportation”と印刷されているのに気づきましたが、意味するところは判りませんでした。

バスは20人近くを乗せて夕刻にターミナルを出発しました。郊外の物寂しいバス停に止まるたびに乗客の数は減り、バスの中は真っ暗なため、一体ど

れだけの乗客が残っているのか判らなくなりました。既に12時を過ぎ、バスは真っ暗なハイウェイを猛スピードで走り続け、とても心細くなり「何時に着く？」と運転手に問いかけても途中で乗車してきた人物と話に夢中でこちらには無関心、まさに、“Not Good…”を実感したのでした。

突然、視野が開け、窓の外には黒い海が広がり、道路の両脇に一定間隔で並んだ照明の光の帯がはるか水平線まで延び、それに沿ってバスは海上を横切っていたかと思うと急に海中のトンネルに入り込む、まるでSF映画のような光景が目前に繰り広げられ、ただただ呆然と見入るだけでした。ノーフォークは有数の港湾の町だったので。

ようやくバスは終着ターミナルに到着しました。人影が全くないバス停に恐る恐る降りたつと、腰に銃をぶら下げた中年の女性警官が近づいて来たのを見て、なぜかホッとしました。タクシー乗り場を教えて貰い、やっとのことで目的のホテルに着いたのは午前3時過ぎ、そのままベッドにもぐり込み寝入ってしまいました。

この旅行の後に、3年ほどアメリカに滞在する機会がありましたが、この日に体験したハプニングの連続はどこかアメリカ社会を映し出しているような気がして、今でも鮮明に記憶に残っています。





# CONTENTS | 目次

## 2014 グアム語学研修プログラム概要

総合科学教育研究センター  
准教授 テリー・リー・ナガハシ

場所・プログラム・目的・期間…………… 2

現地調査・研究テーマ…………… 2

特別講義・体験学習・見学ツアー行程…………… 2

経費・統括者／引率者・参加学生所属内訳…………… 4

プログラム全行程…………… 6

## 研究レポート

グループ1. Guam Culture …………… 10

グループ2. Higher Education in Guam… 12

グループ3. Guam Island Sustainability… 15

グループ4. Guam Tourism …………… 18

## 参加学生レポート

1. 経営システム工学科  
4年 高橋 慶悟 …… 20

2. 経営システム工学科  
4年 伊藤 大輝 …… 21

3. 経営システム工学科  
3年 佐藤 興太 …… 22

4. 経営システム工学科  
2年 河原 彩香 …… 23

5. 機械知能システム学科  
3年 佐藤 武尊 …… 24

6. 機械知能システム学科  
3年 武井 俊樹 …… 25

7. 電子情報システム学科  
3年 森川 歩 …… 26

8. 電子情報システム学科  
2年 清水 元揮 …… 27

9. 建築環境システム学科  
3年 佐藤 智穂 …… 28

10. 建築環境システム学科  
1年 野原あかり …… 29

11. 応用生物科学科  
3年 和田 望 …… 30

12. 応用生物科学科  
3年 渡部 紀幸 …… 31

13. 応用生物科学科  
2年 高橋 悠斗 …… 32

14. アグリビジネス学科  
3年 伊藤久美子 …… 33

15. アグリビジネス学科  
2年 佐藤優理子 …… 34

16. アグリビジネス学科  
2年 鈴木 智帆 …… 35

## 引率者コメント

・総合科学教育研究センター  
准教授 テリー・リー・ナガハシ …… 36

・総合科学教育研究センター  
教授 岡崎 弘信 …… 36

・生物資源科学部  
教授 福島 淳 …… 37

・事務局国際交流室  
国際交流専門員 猿田 直子 …… 37

## 2014 グアム語学研修プログラム概要

総合科学教育研究センター准教授 テリー・リー・ナガハシ

### 【場所】

2014年秋田県立大学夏期語学研修は、グアム大学で行った。グアムは西太平洋上に位置するアメリカ合衆国の準州で、人口161,000人の島である。人口の大部分は、マリアナ諸島に起源をもつチャモロ族が占めている。

グアム島の経済はアメリカ軍の駐留と、観光産業で成り立っている。



### 【語学研修プログラムについて】

本学の2014年度海外語学研修プログラムは、グアム大学の『English Adventure Program』に参加した。過去2回本学が派遣した当プログラムの参加学生の反応が良好だったこと、グアム大学担当部署が本学の要望を受け、目的に沿ったプログラムの組成に友好的かつ協力的であったことが、今回の参加の理由である。今回の研修では特に「体験」に焦点を置いたユニークな学習の機会が多く取り入れられた。指導にあたってくれたのは英語集中課程を受

け持った Ramona Johnston 講師を始め、グアム大教職員の皆様、ゲスト講師の方々、グアム大の学生諸君、地元マンガラオ地区 Captain Henry B. Price 小学校4年生の児童たち他、皆様の御協力によって当研修は遂行された。

研修中は全て英語で学習する。プログラムは、講義への参加、異文化相互理解、島内名所・施設等の見学、大学付属の研究機関や農場での体験学習、協働作業による調査活動などであった。

研修を通じて得られた成果は次の通りである。

- ・英語学習への意欲が向上したこと
- ・学生自身の専門分野に対する探求心が醸成されたこと
- ・海外の文化に対する深く広い視野を持つこと
- ・今後のキャリアパスを描くこと
- ・研究対象を掘り下げたり、その結果を発信する技術に磨きをかけること

### 【期間・プログラム内容】

研修は2014年9月7日から9月21日の2週間行われた。研修中は常時グループ行動を義務づけ消灯時間を定めるなど、十分に学生たちの安全を確保した上で、多様な活動に参加させた。講義の聴講やゲスト講師による特別講義など充実した内容だったが、課外活動に於いては、市街地に新規オープンした「チャモロ先住民文化センター」の訪問、イナラヤンプライベートビーチでの野外活動、地元マンガラオ地区 Captain Henry B. Price 小学校4年生に本学の学生たちが行った特別授業などが、とりわけ注目すべき活動だったと言える。

### 【現地調査・研究テーマ】

グアム大学が提供する『English Adventure Program』履修内容の他に、参加学生にはあらかじめ現地調査・研究の課題を与えた。

グアム大学生との協働作業では、英語でコミュニケーションを取る環境下での作業を求められたことで、意思疎通のためのスキルとして外国語を自然に使うようになることも目的のひとつであった。このような機会に触れることで、参加学生の異文化理解力が高まるだけでなく、英語によるプレゼンテーションスキルも向上させることができた。

渡航前の事前学習として、秋田キャンパスでオリエンテーションを2回行った。16名の参加学生は4つの研究テーマごとにグループ分けされ、1) グアムの文化 2) グアムの高等教育 3) グアム島の持続的発展 4) グアムの観光産業について調査を開始した。

各グループは、秋田で行った2回目のオリエンテーションで事前調査した結果を英語で発表した。現

地では、グアム大学の学生が数名リサーチアドバイザーとして各グループに付き、引き続き調査、資料収集などを協力して行った。最終日には、グアム大教職員、学生らの前で、プログラムを通じて得られた研究成果の発表を英語で行った。帰国後、各グループは調査結果を英文レポートにまとめて提出【レポート1-4】、また11月に秋田・本荘両キャンパスで行った「2014 留学報告会」では、同様の内容を日本語で発表した。

【その他】

グアム大学が提供している既存のプログラムには無い、本学むけの特別講義や体験学習を組み込んだことが当研修プログラムの特徴といえる。[図1]

【図1】 本学むけ特別講義・体験学習

Date	Presentation Title (講義名)	Lecturer (講師)	Title/Position (所属・肩書)
Tuesday 9/9	Class Audit : (聴講) Introduction to Sociology (社会学)	Dr. Johnson (ジョンソン教授)	Professor, Department of Sociology, UOG (グアム大学社会学部教授)
	Sustainable Agricultural Systems: Issues, Technology and Innovation (持続的発展農業と技術革新について)	Dr. Marutani (マルタニ教授)	Professor, Agriculture and Life Science Division, College of Natural and Applied Sciences, University of Guam and Tropical Agriculture Science Program (Advisement Liaison), specializing in germplasm improvement, conservation of native species, and agroecology (グアム大学農業生命科学・熱帯農業科学部・教授)
	Introduction to Triton Farm, An Integrated Demonstration Farm at the University of Guam (トリトンファームについて(農場作業実習))	Dr. Marutani (マルタニ教授)	
Wednesday 9/10	Lecture on Guam from the Perspective of Geography, History, and Anthropology (グアムの地理、歴史、考古学)	Dr. Kurashina (クラシナ教授)	Director Emeritus of Micronesian Area Research Center (MARC) (ミクロネシア研究名誉センター長)
		Dr. Stephenson (ステファンソン教授)	Professor Emerita of Anthropology (考古学名誉教授)
Thursday 9/11	Class Audit : (聴講) Introduction to Sociology (社会学)	Dr. Johnson (ジョンソン教授)	Professor, Department of Sociology, UOG (グアム大学社会学部教授)
	An Introduction to UOG's Green Army (学生サークルの紹介)	Student Volunteer (学生ボランティア)	Undergraduate Student, UOG (グアム大学部生)
	Introduction to the Center for Island Sustainability (持続的発展研究センターについて)	Phillip John R. Cruz (クルーズ講師)	Extension Associate II, Island Sustainability Center, UOG (グアム島持続的発展研究センター副センター長)
	How to Grow Eggplants and Hot Peppers (ナスととうがらしの栽培について)	Phoebe Wall (ウォール講師)	Extension Associate III, Cooperative Extension Service, UOG (グアム大学地域センター)

【図1】 本学むけ特別講義・体験学習（続き）

Date	Presentation Title (講義名)	Lecturer (講師)	Title/Position (所属・肩書)
Monday 9/15	Introduction to Sociology: Special Lecture (社会学特別講義)	Dr. Johnson (ジョンソン教授)	Professor, Department of Sociology, UOG (グアム大学社会学部教授)
	Guam's Dangerous and Poisonous Sea Creatures & 4-H Fisheries Activity (沿岸の危険な海洋生物について)	Mr. Chris Kenty (ケンティ講師)	4-H Youth Development Program, Cooperative Extension Service, UOG (グアム大学 青少年育成センター)
	UOG Marine Lab Tour (グアム大学海洋研究所見学)	Graduate Students, UOG (グアム大学 大学院生)	Graduate Students, Marine Laboratory, UOG (海洋研究所 所属大学院生)
Tuesday 9/16	"Journey Stories" with Sindalu: Chamorro Journeys in the U.S. Military (チャモロ人の起源/軍隊への道)	Smithsonian Institution National Traveling Exhibit (スミソニアン博物館特別展)	The Isla Center for the Arts, UOG (グアム大学付属イスラ美術館)
	History of the Northern Marianas Islands (北マリアナ諸島の歴史)	Dr. Moore & Dr. Amesbury (ムーア/アムスバリー講師)	Archeologists, Micronesian Archeological Research Services (ミクロネシア考古学研究センター)
	T. Stell Newman Visitor Center, War in the Pacific National Historical Park (太平洋戦争記念館)	Park Ranger (自然保護官)	National Park Service Ranger, USA (アメリカ国立公園自然保護官)
Wednesday 9/17	Historical Island Tour (グアム島名所旧跡見学ツアー)	Ms. Jean Taitano (ジーン・タイタノ局員)	Certified Guam Tour Guide (グアム政府観光局)
	INADEHEN I LINA' LA' I KOTTURAN CHAMORU INC. (Chamoru Cultural Immersion Center) (チャモロ先住民文化センター)	Cultural Center Volunteers (地元ボランティアスタッフ)	Local Artisans of Guam (地元芸術家など)
Thursday 9/18	An Introduction to Japanese Culture for 4th graders at Captain Henry B. Price Elementary School, Mangilao (日本文化紹介)	Students, Akita Prefectural University (秋田県立大学 学生)	Students, Akita Prefectural University (秋田県立大学 学生)
	Guam Tourism (グアムの観光産業)	Dr.Schumann (シューマン准教授)	Associate Professor, Global Resource Management, School of Business and Public Administration, UOG (グアム大学ビジネス学科准教授)

【経費】 一人あたり

- 1) 大学からの助成
  - ・ 国際航空費 ￥73,620
- 2) 個人負担 ￥110,000
  - ・ 学費
  - ・ 滞在費
  - ・ 現地交通費
- 3) その他経費（個人負担）
  - ・ パスポート申請
  - ・ 海外旅行保険
  - ・ 国内旅費

【責任者】

当研修プログラムは、秋田県立大学総合科学教育研究センターのテリ・リー・ナガハシ准教授の監修・統括責任のもと、全4名の教職員の引率によって遂行された。[図2]

【図2】引率者

キャンパス	所属	氏名
Akita 秋田	Research and Education Center for Comprehensive Science (RECCS) 総合科学教育研究センター	Associate Professor / Terri Lee Nagahashi 准教授 / テリー・リー・ナガハシ
Honjo 本荘		Professor / Hironobu Okazaki 教授 / 岡崎 弘信
Akita 秋田	Department of Biotechnology 生物資源科学部	Professor / Jun Fukushima 教授 / 福島 淳
	APU International Exchange Center 国際交流室	Co-Director / Naoko Saruta 国際交流専門員 / 猿田 直子

【図3】参加学生

キャンパス	所属	学年	氏名
Honjo 本荘	Management Science and Engineering 経営システム工学科	4	Keigo Takahashi 高橋 慶悟
			Daiki Ito 伊藤 大輝
		3	Kota Sato 佐藤 興太
			2
	Machine Intelligence and Systems Engineering 機械知能システム学科	3	Takeru Sato 佐藤 武尊
			Toshiki Takei 武井 俊樹
		3	Ayumu Morikawa 森川 歩
			2
	Architecture and Environment Systems 建築環境システム学科	3	Chiho Sato 佐藤 智穂
		1	Akari Nohara 野原 あかり
Akita 秋田	Biotechnology 応用生物科学科	3	Nozomi Wada 和田 望
		2	Noriyuki Watanabe 渡部 紀幸
			Yuto Takahashi 高橋 悠斗
	Agribusiness アグリビジネス学科	3	Kumiko Ito 伊藤 久美子
		2	Yuriko Sato 佐藤 優理子
			Chiho Suzuki 鈴木 智帆

\* 以上はナガハシ准教授の報告書を翻訳・要約したものである

【プログラム全行程：第1週】

Date	Day 1 Schedule
9月7日(日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・14:00 成田空港第1ターミナル南ウイング集合</li> <li>・17:00 成田空港発</li> <li>・21:55 グアム国際空港着</li> <li>ホテルチェックイン</li> <li>・24:00 就寝</li> </ul>
Date	Day 2 Schedule
9月8日(月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・09:30 ホテル発</li> <li>・10:00-12:30 オリエンテーション、歓迎昼食会、グアム大学キャンパスツアー（グアム大学 IFC メンバー）</li> <li>・12:30-14:30 グアム大学生との交流（カンパセーションパートナー）</li> <li>・14:30-16:30 ESL（英語：ジョンストン講師）</li> <li>・16:30 グアム大学 発</li> <li>・16:40-17:10 スーパーマーケット立ち寄り（食料品購入）</li> <li>・17:30-23:00 ホテル着：夕食、グループ作業、自由時間</li> <li>・23:00 就寝</li> </ul>
Date	Day 3 Schedule
9月9日(火)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・09:00 ホテル発</li> <li>・09:30-11:00 社会学（聴講：ジョンソン教授）</li> <li>・11:00-12:00 持続的発展農業と技術革新について（特別講義：マルタニ教授）</li> <li>・12:00-13:00 昼食（グアム大学カフェテリア）</li> <li>・13:00 グアム大学 発</li> <li>・13:30-16:00 グアム大学付属トリトン農園 体験作業</li> <li>・16:00 トリトン農園 発</li> <li>・17:30-23:00 ホテル着：夕食、グループ作業、自由時間</li> <li>・23:00 就寝</li> </ul>
Date	Day 4 Schedule
9月10日(水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・09:00 ホテル発</li> <li>・09:30-10:30 グアムの地理、歴史、考古学（特別講義：クラシナ教授/ステファンソン教授）</li> <li>・10:30-12:00 ESL（英語：ジョンストン講師）</li> <li>グループ①課題発表（英語劇：グリム童話より『漁師とその妻』 Fisherman and his wife)</li> <li>・12:00-13:00 昼食（グアム大学カフェテリア）</li> <li>・13:00-15:00 研究テーマの協働作業（県大生+グアム大生）</li> <li>・15:00-16:00 グアムの伝統ダンスレッスン</li> <li>・16:30 グアム大学 発</li> <li>・17:00-19:30 チャモロビレッジナイトマーケット見学</li> <li>・20:00-23:00 ホテル着：夕食、グループ作業、自由時間</li> <li>・23:00 就寝</li> </ul>
Date	Day 5 Schedule
9月11日(木)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・09:00 ホテル発</li> <li>・09:30-11:00 社会学（聴講：ジョンソン教授）</li> <li>・11:00-12:30 グアム島持続的発展研究センターについて（クルーズ講師）</li> <li>・12:30-13:40 昼食（グアム大学カフェテリア）</li> <li>・13:40-16:00 持続的発展研究センター訪問</li> <li>・16:30 グアム大学 発</li> <li>・17:00-23:00 ホテル着：夕食、グループ作業、自由時間</li> <li>・23:00 就寝</li> </ul>
Date	Day 6 Schedule
9月12日(金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・08:00 ホテル発</li> <li>・09:00-16:00 野外活動（イナラヤンプライベートビーチ）</li> <li>・16:00 イナラヤンプライベートビーチ発</li> <li>・17:00-23:00 ホテル着：夕食、グループ作業、自由時間</li> <li>・23:00 就寝</li> </ul>
Date	Day 7 Schedule
9月13日(土)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・11:00-17:00 グアム観光体験</li> <li>・18:00-20:00 夕食会（料理持ち寄り）</li> <li>グループ②課題発表（英語劇：グリム童話より『漁師とその妻』 Fisherman and his wife)</li> <li>・20:00-23:00 グループ作業、自由時間</li> <li>・23:00 就寝</li> </ul>



9/8(月) キャンパスツアー (グアム大学 IFC メンバー)



9/8(月) ESL (ジョンストン講師)



9/9(火) 持続的発展農業と技術革新 (マルタニ教授)



9/9(火) トリトン農園 作業体験



9/10(水) グアムの地理・歴史・考古学  
(クラシナ教授・ステファンソン教授)



9/10(水) 研究テーマ (グループワーク)



9/11(木) グアム島持続的発展 (ダニー研究員)



9/11(木) Sustainability 実験農園実習

【プログラム全行程：第2週】

Date	Day 8 Schedule	
9月14日(日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・06:00</li> <li>・07:00-10:00</li> <li>・11:00</li> <li>・11:00-17:00</li> <li>・18:00</li> <li>・18:30-23:00</li> <li>・23:00</li> </ul>	ホテル発 デデオフリーマーケット(朝市) ホテル戻り グアム観光体験 ホテル着 グループ③課題発表(英語劇:グリム童話より『漁師とその妻』 Fisherman and his wife) 夕食、グループ作業、自由時間 就寝
Date	Day 9 Schedule	
9月15日(月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・09:00</li> <li>・09:30-11:00</li> <li>・11:00-12:00</li> <li>・12:00-13:00</li> <li>・13:30-14:30</li> <li>・14:30-16:30</li> <li>・16:30</li> <li>・17:10-23:00</li> <li>・23:00</li> </ul>	ホテル発 社会学(特別講義:ジョンソン教授) 沿岸の危険な海洋生物について(特別講義:ケンティ講師) 昼食(グアム大学カフェテリア) グアム大学付属海洋研究所見学(同研究所所属研究生) 海釣り講座(ケンティ講師) グアム大学 発 ホテル着:夕食、グループ作業、自由時間 就寝
Date	Day 10 Schedule	
9月16日(火)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・09:00</li> <li>・9:30-11:00</li> <li>・11:00-12:00</li> <li>・12:00-13:00</li> <li>・13:00</li> <li>・14:00-16:00</li> <li>・16:45-23:00</li> <li>・23:00</li> </ul>	ホテル発 グアム大学付属イスラ美術館着『チャモロ人の起源/軍隊への道』 (スミソニアン博物館特別展) 北マリアナ諸島の歴史(特別講義:ムーア/アムスバリー講師) 昼食(グアム大学カフェテリア) グアム大学 発 太平洋戦争記念館見学 ホテル着:夕食、グループ作業、自由時間 就寝
Date	Day 11 Schedule	
9月17日(水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・09:00-16:00</li> <li>・16:00-23:00</li> <li>・23:00</li> </ul>	グアム島見学ツアー(グアム政府観光局:タイタノ局員) (恋人岬、チャモロ先住民文化センター、ラテットストーン公園、フォートアフガン岬他) 夕食、グループ作業、自由時間 就寝
Date	Day 12 Schedule	
9月18日(木)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・08:30</li> <li>・09:00-10:15</li> <li>・11:00-12:00</li> <li>・12:00-13:00</li> <li>・13:00-15:00</li> <li>・15:00-17:00</li> <li>・17:00</li> <li>・17:30-23:00</li> </ul>	ホテル発 Captain Henry B. Price 小学校訪問 (県大生による特別授業:『日本文化の紹介と昔の遊び体験』) グアムの観光産業について(シューマン准教授) 昼食(グアム大学カフェテリア) 研究テーマ・レポート仕上げ(カンバセッションパートナー) ダンスレッスン(ズンバ) グアム大学 発 ホテル着:夕食、グループ作業、自由時間
Date	Day 13 Schedule	
9月19日(金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・09:00</li> <li>・09:30-11:00</li> <li>・11:00-12:30</li> <li>・12:30-16:30</li> <li>・16:30</li> <li>・17:00-23:00</li> <li>・23:00</li> </ul>	ホテル発 研究テーマ・レポート仕上げ(カンバセッションパートナー) 研究発表 プログラム修了式・食事会 グアム大学 発 ホテル着:夕食、グループ作業、自由時間 就寝
Date	Day 14 Schedule	
9月20日(土)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・10:00-16:00</li> <li>・18:30-23:00</li> <li>・23:00</li> </ul>	グアム観光体験 夕食会(グアム大学生を招待) グループ④課題発表(英語劇:グリム童話より『漁師とその妻』 Fisherman and his wife) 就寝
Date	Day 15 Schedule	
9月21日(日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・09:00</li> <li>・09:30</li> <li>・12:05</li> <li>・15:00</li> </ul>	ホテルチェックアウト ホテル発 グアム国際空港 発 成田空港着 解散



9/15(月) 社会学特別講義 (ジョンソン教授)



9/15(月) 海洋研究所



9/16(火) グアム大学イスラ美術館



9/17(水) チャモロ先住民文化センター訪問



9/16(火) 北マリアナ諸島の歴史  
(ムーア/アムスバリー講師)



9/18(木) Captain Henry B. Price 小学校訪問



9/18(木) グアム観光産業  
(シューマン准教授)



9/19(金) 研究テーマ発表



9/19(金)  
プログラム修了式

## *Student Research Report on Guam Culture*

### **Guam Culture**

Kota Sato and Ayaka Kawahara, Department of Management Science and Engineering  
Ayumu Morikawa, Department of Electronics and Information Systems  
Kumiko Ito, Department of Agribusiness  
Selene Santos, Eileen Prangan and Ray Cabral, University of Guam

We researched about Guam culture and chose to focus on three main points: history, Chamorro language, and patriotism. There are various aspects of a culture, but we think these three best symbolize Guam culture.

Cultural diversity on Guam is related to its history. Therefore we will explain about the historical and cultural background of Guam. Indigenous people on Guam, also known as the Chamorro people, lived in peace for a long time and established their own culture, which was similar to the ancient Austronesian culture of the Philippines, Indonesia, and Malaysia.

During this early time, latte stones were developed. Latte stones, consisting of a pillar and a capstone, were used for bases of buildings. Four pairs of pillars were used as the foundation (see Figure 1). Latte stones vary in size, ranging from about 6 to 8 meters. The bigger the latte stone



**Figure 1.** Hagatna's Latte Stone Park

was, the more power a person held. Nowadays, latte stones can be seen everywhere on Guam as a symbol of power. The stones can even be seen in the governor of the state's office. In Guam, the existence of the latte stone is very important.

Later, in 1521, Portuguese navigator Ferdinand Magellan arrived on the island of Guam. Guam became a Spanish colony, and the indigenous culture started to fade away. Then, in 1898, Spain surrendered the island of Guam to the United States. With the exception of the Japanese invasion during WWII, Guam has been ruled by the U.S. in peace.

Next we will explain about the Chamorro language. Chamorro its own special alphabet, which consists of 24 characters (see Figure 2). Local children on Guam learn the Chamorro language in elementary school. We learned a certain phrase in the lecture about sociology, "The middle of a culture is the language." Their education makes them proud of their culture. It turns out that the greeting "Hafa Adai" is often used. One distinction about the Chamorro language is the strong accent. In the southern part of the island, the accent is especially thick and is difficult for a person to understand. Pure Chamorro is hardly spoken. It is mainly spoken mixed with English.

Finally, we will talk about patriotism. In order to maintain one's culture, there needs to be adequate affection for it. We selected patriotism



Figure 2. The Chamorro alphabet

as one of our three main points of Guam culture because we got the feeling that UOG students love their island. In Guam, they sing the national anthem of United States, the Star-Spangled Banner, and the state song of Guam, which is known as the Guam Hymn in English and Fanohge Chamoru in Chamorro. The Guam

Hymn is sung at opening ceremonies, receptions, military ceremonies, and when hoisting the nation's flag. Fanohge Chamoru is sung in school. On Guam, the people pledge allegiance to not only the United States but also to Guam. This seems to make a good condition to keep their culture.

In conclusion, though the original culture of Guam, the Chamorro culture, has diminished over the years because of colonization and occupation, it is still alive and being preserved by means of education. Chamorro language is being taught in the local schools and the people love their island and its culture. The latte stone is a symbol of their history and proudly displayed. In this way, Guam culture has been preserved and conveyed by local people. We think that patriotism will keep Guam's culture from becoming extinct.

## Student Research Report on Guam Higher Education

### Higher Education in Guam

Chiho Sato, Department of Architecture and Environment Systems  
 Daiki Ito, Department of Management Science and Engineering  
 Takeru Sato, Department of Machine Intelligence and Systems Engineering  
 Yuto Takahashi, Department of Biotechnology

Japan and Guam have different cultures, so we expected to discover something we don't have if we compared them. We are interested in higher education in Guam, so we researched about this topic and focused on the University of Guam. In this report we are going to compare the University of Guam (UOG) with Akita Prefectural University (APU).

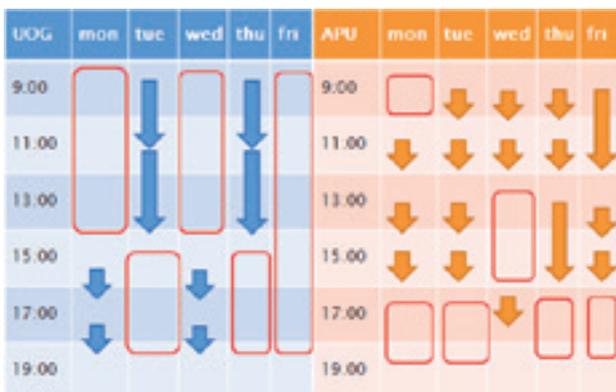
First, we will compare the number of students, class size and cost per credit (see Table 1). In APU, we have about 1,600 students and UOG has about 3,400 students. In APU, there are about 8 to 200 students in a class and in UOG, there are about 8 to 50 students in a class. The price per credit is about \$180 at APU and about \$190 at UOG. As you can see, these two universities don't have a big difference in price. However, we have different ways of calculating this price. For example, students in UOG pay per credit and students at APU pay by the semester. We think

**Table 1.** A Comparison of UOG and APU

	UOG	APU
Number of students	3,400	1,600
Number of students in one class	8~50	8~200
Price per credit (International)	\$180 (\$457)	\$190 (\$180)
Credits you need in order to graduate	100~130	123~128

that knowing the price per credit is important for understanding how much we are paying for each class and this contributes to motivation for studying. The UOG students seem so positive about learning.

Second, we will compare sample time schedules from each university (See Figure 1). The blue schedule belongs to a UOG student who is a junior majoring in Biology and the orange schedule belongs to an APU student who is a junior majoring in Machine Intelligence and Systems Engineering. The arrows represent one class. When comparing the two schedules, we noticed that the UOG student has less classes and more free time in one day than the APU student. What do these students do during their free time? The UOG student uses her free time to study and participate in club activities, while the APU student uses his free time for his part-time job. We think this UOG student has high motivation for studying. We should follow her



**Figure 1.** Sample student class schedules

example.

Third, we will talk about our impressions of the classes and students of UOG. On two days, we joined Dr. Kirk Johnson's Intro to Sociology class. His classes were so powerful. For example, one day he made his student stand on the podium in the front of the room (see Figure 2). This was an unbelievable sight for us. Of course, from the outset, their students seem positive to study. UOG's system makes students study harder. In addition, they're not only studying, they are volunteering and doing something for their motherland. For example, a few UOG students joined each of our research groups and helped us with our topics. They are volunteers. UOG provides various learning opportunities. "Without dialogue there is no communication, and without communication there can be no true education" (Paulo Freire). Dr. Kirk Johnson taught us this wise quote. Without communicating with our conversation partners, we couldn't have realized what this quote meant. We had a great experience because we could find what we needed after this.

Fourth, we will compare about graduation requirements. At APU, students join a laboratory after their third year and work on a research project. On the other hand, UOG students do research, field work, or have an internship. It depends on their major. Some majors don't have laboratories. Other majors have laboratories, but students can't join the laboratory without a professor's recommendation, so it is not easy. Most Japanese university students need to submit a research paper in order to graduate. We think that UOG students have a greater freedom of choice and feel that there are many opportunities open to them.

Finally, during this tour, we saw something surprising, UOG students mourning for 3.11. They never forget the terrible incident that happened more than 10 years ago. On the other hand, at APU, we don't mourn for 3.11 or other terrible incidents. Many of the UOG students, administrators, and teachers are considerate of their country and people in spite of Guam being so far from the United States. We felt that it was a good custom.



**Figure 2.** UOG student standing on the podium in Dr. Kirk Johnson's Intro to Sociology class



**Figure 3.** Mourning for 9.11

In conclusion, we spent two weeks with UOG students and found that they seem positive about studying and are interested in a lot of things. We realized that UOG's system of classes, credits, time schedules and graduation requirements are very different from APU or other Japanese universities. We think that this system makes UOG students positive to study. This positive attitude will help them develop many abilities. We would like to follow UOG students' attitude, and we think that Japanese universities should imitate some these systems which make students positive to learn.

*Student Research Report on Guam Island Sustainability***Guam Island Sustainability**

Keigo Takahashi, Department of Management Science and Engineering  
Genki Shimizu, Department of Electronics and Information Systems  
Yuriko Sato and Chiho Suzuki, Department of Agribusiness

Sustainability is a word we often associate with the environment, economy, society, and education. In this report, we will focus on the environment of Guam and associate sustainability with the ecology movement in Guam. We think that the people should live in harmony with nature for the sustainability of Guam. Guam has been working towards the island's sustainability, so we'll introduce some of their efforts. We will focus on three points (1) the background, (2) recycling and (3) renewable energy.

First, we will provide some background information about Guam. As you know, Guam, like Japan, has limited area and resources. Therefore, they need to use various activities for island sustainability and to protect the environment. They need to think seriously about island sustainability. On the island of Guam, garbage is increasing rapidly, and the capacity of one dump has been reached and a new one has been started. To manage this problem people need to reduce, reuse, and recycle. In addition, they should try to decrease the amount of carbon dioxide in the environment, which is contributing to the greenhouse effect. The earth is becoming warmer and sea levels are rising. They need to do various activities for island sustainability in Guam to protect the environment. For example, it is possible to conserve energy by saving electricity and walking instead of driving cars to save gas.

Our second point is about recycling. Where

does garbage go on the island? Before 2011, garbage went to the Ordot Dump, which is now a landfill and located in Chalan Pago-Ordot Village. The closure of the Ordot Dump played an important role in the development of the waste management on Guam. The Government of Guam wanted to reduce the waste that would go into the new landfill (Layon Landfill in Inarajan Village), so they partnered up with the University of Okayama to help with recycling.

In Guam, recycling isn't as common as it is in Japan, but it is beginning to improve. In the University of Guam (UOG), we saw the present situation. The garbage cans on campus have separate sections for different types of trash, for instance, combustible garbage, aluminum cans, and plastic. At home, people have trash bins, one with a green lid and one with a black lid. The



**Figure 1.** The Center for Island Sustainability (CIS) test garden. Shredded paper is being used on the garden as mulch.

trash can with the green lid is for recycling paper, cardboard, aluminum cans, and plastic bottles. The rest of the garbage is thrown into the trash can with the black lid. At the Center for Island Sustainability (CIS) in UOG, we saw two ways of recycling. One way was for recycling shredded paper. The paper is being used as mulch in the garden (see Figure 1). This mulch has three advantages. It helps control soil temperature, keeps the soil moist and inhibits the growth of weeds. In Japan, black plastic mulch is common. Unfortunately, unlike the shredded paper, it is not biodegradable. The other way of recycling that we saw was composting. Food and other biodegradable wastes are put into a pile and left to decompose. When the compost is finished, it is used for plants as fertilizer.

Our third point is about renewable energy, including wind and solar. Guam needs to develop renewable energy sources, so it will not be so dependent on imported fuel. Recently, Guam has been trying to use wind energy. There are a total of four wind systems in Guam. We heard from University of Guam students that three systems are owned by the University of Guam, (Two can be found in two different farms and one on campus) and the fourth one is owned by a private company in Piti. We noticed that they are smaller than systems in Japan and break easily. We want to improve them, so that more people will use them in the future.

Next we will explain about solar photovoltaic systems. Solar photovoltaic systems were introduced to Guam in 2012. There are three solar panel systems in Guam. The University of Guam, which uses a total power of 1.98kw, has one of them. One of the differences that we noticed is that there is no system for selling the

surplus electricity like there is in Japan. We think that the government needs to create a system for selling the surplus electricity. We also saw a solar water-heater. This system raises the water temperature using sunlight. In Japan, this system isn't used as often.

Finally, we will explain about electric cars. We saw an electric car when we went to the Center for Island Sustainability (CIS) in the University of Guam (see Figure 2). An electric car is an automobile that is powered only by electricity, and because it doesn't use gasoline, it can be recharged using an outlet in your own house. However, it can't be driven the same as gasoline-powered cars because the range is limited.

In addition, while we were in Guam, we noticed that there was a symbol for saving energy everywhere. It is called ENERGY STAR. It is a U.S. Environmental Protection Agency (EPA) voluntary program that helps businesses and



Figure 2. UOG's electric car

individuals save money and protect the climate by using more energy efficient appliances. We can see the ENERGY STAR symbol in many places, for example, in school, at home, and in stores. It is usually stuck on the air conditioners, refrigerators, and water heaters. We can reduce energy use with these energy saving appliances.

In conclusion, Guam is a small island with limited resources, so people should save resources and energy. They must find other energy resources such as solar energy and wind energy and also need to find a way for people to sell the surplus energy. The government should also promote living in harmony with nature. However, the most important thing is more people should be aware of the importance of the environment in Guam.

## *Student Research Report on Guam Tourism*

### **Guam Tourism**

Toshiki Takei, Department of Machine Intelligence and Systems Engineering  
Akari Nohara, Department of Architecture and Environment Systems  
Nozomi Wada and Noriyuki Watanabe, Department of Biotechnology

We researched about tourism in Guam on our trip because it's a major industry in Guam. We thought we could find some interesting things about Guam tourism. We focused on four main points and researched about shopping, food, sightseeing, and the number of tourists.

First, we will explain about shopping. Tumon and Hagatna are the main shopping districts on Guam. Popular places for tourists to shop include Guam Premier Outlets (GPO), Kmart and the Micronesia Mall. At GPO, there are stores on the upper floor and a food court on the lower floor. People can spend a whole day shopping here. We recommend the fast fashion store in GPO. There are many kinds of clothes and discount goods in this store. Kmart is the largest discount department store on Guam, and it is open 24 hours. We can buy a large variety of souvenirs, ranging from Chamorro Chip Cookies to dried mango. Micronesia Mall has many specialty shops. There are cheap folk crafts, aloha shirts and resort wear. There is also an amusement area, so families can enjoy this place.

Second, we will explain about food. The traditional food of Guam is Chamorro Fiesta style dishes, such as red rice and chicken. We can also eat Filipino style food at the Chamorro Village Night Market (see Figure 1). The Night Market is held every Wednesday. We can buy fresh coconut here and enjoy coconut juice. Coconut candy is also available. In addition, we can eat Chamorro



**Figure 1.** Turon (banana lumpia), a Filipino snack.

food at KFC. McDonalds is also different than in Japan. We can eat wrap sandwiches and have infinite refills on drinks.

Third, we will explain about sightseeing. Two famous tourist spots are Two Lovers Point and Tumon Beach (see Figure 2). Two Lovers Point is well known for its beautiful view, and



**Figure 2.** Tumon Beach, Guam

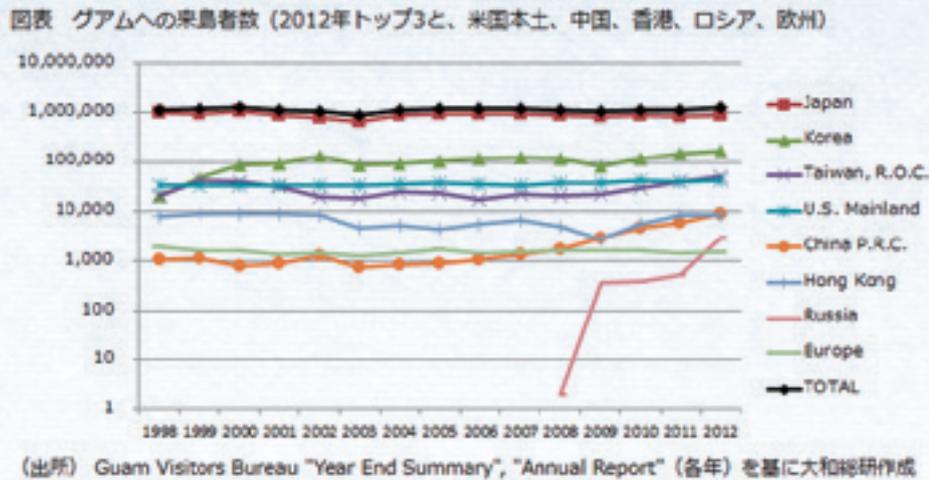


Figure 3. Number of tourists who visited Guam in 2012.

people often have weddings here. Some visitors like to tie tags with messages about their loved ones and promise their love. Tumon Beach has a beautiful sea. The beach has shallow waters and it is very clear. We can enjoy snorkeling and diving. However, we should pay attention to pickpocketing and poisonous sea creatures.

Finally, we will explain about the number of tourists. Tourism in Guam began developing in 1970. At first there was only one hotel, but today there are many hotels lining the waterfront. The number of tourists in Guam has reached 1.3 million per year. Japanese tourists account for 70% of the total. Guam plans to further increase the current number of tourists who can enjoy the sightseeing and the shopping with the Guam Tourism 2020 Plan. Guam hopes to increase the number of tourists from 1.3 million to 2 million by the year 2020. The Plan includes an increase in the number of hotel rooms from the current 8,000 rooms to 10,000 rooms.

In conclusion, the tourist industry of Guam is an extremely important matter, as it supports the economy of this small island. We think that it is desirable for tourists to increase when regarding

the continuance of future island development. Therefore it is necessary for Guam to differentiate itself from the other Micronesian islands. While Guam can try to make itself more unique, there are environmental problems that will need to be addressed. It is necessary to address the protection of the environment sustainability. The increase in tourists will also cause a gradual decrease in environmental quality.

## グアム語学研修レポート

経営システム工学科 4年 高橋 慶悟



まず始めにこの語学研修に応募したきっかけは、英語を話す、理解するということがとても重要なことだと思ったからです。私は就職活動を通じて、多くの外国人が日本で生活し、英語を日常的に使用していることを知りました。また、自分自身が世界で仕事をするためには英語がかかせないスキルとなってきます。なぜなら英語に限らず、外国語の能力を求める日本の企業も多く、英語が話せなくては仕事ができない時代になりつつあると感じるからです。そんな気持ちの中で語学研修に臨みました

私達は、4つのグループに分かれてグアムの現状について調査することになり、教育、文化、持続的発展 (Island Sustainability)、観光の4つの中から Island Sustainability を研究テーマに選びました。実際、グアムに行ってみると日本のようにリサイクルや再生可能エネルギーシステムが発展していないことに驚きました。風力発電はグアム大学内に3基、一般家庭に1基、太陽光パネルはグアム全体で111基設置されていました。日本では、風力発電は1934基、太陽光パネルは111,921基設置されています。日本と比べてとても少ないことがわかりました。しかし、大規模なりサイクルシステムは日本ほど発達していない一方で、特に私が興味を感じたのは、大学の食堂でのゴミの分別が徹底されていた点でした。身近なりサイクルシステムはしっかりと確立されているように見受けられました。また、大学内の研究施設では Island Sustainability のための研究が行われていました。中でも印象的だったのが、コンポストです。畑の土と紙を混ぜて放置することで紙を分解させていたことです。こういった取り組みがゴミの少量化につながっていると感じました。日本でも行われているとは思いますが、私自身は初めて見たので感動しました。グアムは日本と同じ島国なので、考えさせられる場面がたくさんあ

りました。現在グアム大学で行われている Island Sustainability の試みが今後どのように実現化して、運用されていくのが注目したいと思いました。

また、グアム大学での講義は大変新鮮でした。日本では教授が一方向的に話すことが一般的ですが、ここでは学生との会話の中で講義を行っていました。教授がコーヒーを飲みながら授業をしたり、雑談をしたりする様子もとても面白かったです。

今回の研修は2週間という短い間でしたが、とても不安でした。私はリーダーを任せられ、全員で16人いるメンバーの体調の確認、連絡事項の伝達、イベントの計画を任せられました。実際にグアムで仲間と集団行動をしてみると大変だなと感じる部分がたくさんありました。リーダーとして自覚ある行動をしなければならない反面で、メンバーが楽しく、快適に語学研修を行う環境作りを心がけ、みんなの能力をうまく引き出そうと努めました。この研修では英語を学び、集団行動の難しさも学んだことは私にとって大きな糧となったといえます。



## 研修を経て



経営システム工学科 4年 伊藤 大輝

今回のプログラムに参加したきっかけは、英語を使って国内外で働きたいと考えているからです。私は、就職活動を終えた4年生です。就職活動を通して海外企業との競争化・国内需要の衰退という状況から、日本企業のグローバル化に伴う英語の必要性を感じ、英語をつかう為の第一歩目として参加させて頂きました。グアムでの研修は、すべてが新鮮なものでした。土地、気候、人、車や料理、放送しているテレビ番組の1つ1つに文化の違いと言語の壁を感じました。「伝えたいことがあるのに伝えられない」語学研修を終えた方からよく聞くフレーズですが、私自身この言葉の意味を体験できた事はいい経験となりました。

研修の主な課題は、4つの班に分かれ、それぞれが選択した課題に取り組み、最後にプレゼンテーションを行うという内容でした。私が選択した課題は、Higher Educationです。UOG（グアム大学）とAPU（秋田県立大学）のシステムを比較し、学び方や学生個人の考えの違いを調査しました。UOGの学生と交流を深めていくと、日本の学生より将来のプランを持っている人が圧倒的に多かったです。その結果が日々の講義に取り組む姿勢に表れていました。社会学の講義では、最前列が埋まり学生と先生が意見を交換し、討論しながら進めていく授業スタイルに驚きました。

社会学のJohnson教授には、後日、私達のためだけに講義をして頂きました。内容は、私達の研究課題と社会の関係性についてでした。それぞれの課題と実社会の相互関係について学ぶことで、その後のグループワークでは、より詳しく話し合うことができました。講義では”Without dialogue there is no communication, and without communication there is no true education”という言葉が特に印象に残りました。研修前の事前

学習では、知り得なかった情報をUOGの学生から聞くことができました。その中で私が面白いと感じた点は2つあります。1つ目は、学科ごとに卒業の条件が違うことです。日本では、基本的にどの学科も卒業条件に卒業論文が含まれますが、UOGでは学科ごとに卒業論文を書く研究室、あるいは研究室に入らずにインターンシップやフィールドワークが卒業条件になるなど、根本的な違いを感じました。2つ目は、学内においてアルバイトができることです。学生が講義1コマを担当して教えたり、学食内でゴミの分別をしたり、様々な仕事がありました。学生と大学が深く関わりあっている事を感じました。今回の研修を経て、私は、英語力だけではなく自国の文化の知識も足りていないと感じました。グアムと比較をする際、自国の文化の説明が必要不可欠でした。英語を学ぶことで、自国の良さを改めて確認する良いきっかけとなりました。短い期間ではありましたが海外での生活は初めてのことが多く、語学研修のみならず、食事や洗濯などの日常生活面でも苦労がありました。しかし、困ったことや世間話にもUOGの学生はいつも真剣に聞いてくれました。その気持ちに応えたい一心で、言葉を補うために身振り手振りを大きくし、自分の気持ちを伝える努力をしました。海外に友達を作る事は英語を学ぶ上で大きな原動力となると感じました。この研修で学んだことを活かし、残り少ない学生生活ではありますが、英語の学習により一層取り組んでいきます。



## 挑戦と財産



経営システム工学科 3年 佐藤 興太

今回の語学研修における私の目的は、「異文化を体験することと海外の友人を作ること」、そして「言葉が通じない環境でどのようにコミュニケーションをとるべきなのかを学ぶこと」の3つでした。今回私たちを歓迎してくれたのはグアム大学の International Friendship Club の学生たちでした。「言葉が通じずに相手に呆れられたら。相手の英語が理解できなかったらと不安に思っていました。伝えるまで時間がかかっても最後まで聞いてくれ、理解してくれようとしてくれました。相手の英語が聞き取れなかった時は、スピードを落とし、より分かりやすい言い回しに変えてくれました。本当に温かく、私達に接してくれました。

グアムを訪れる前に、グアム文化について調べました。チャモロ文化やチャモロ料理、歴史背景について調べましたが、Conversation Partner でグアム大学生と話をすることによって、それまで知らなかったことを沢山学ぶことができました。特に印象に残っているのが、現地の方々の持つ愛国心の強さです。グアムの小中学校、高校では英語の国歌だけでなく、チャモロ語の国歌も歌い、チャモロ語の授業、チャモロダンスの授業があることを教えてもらいました。スペインやアメリカ、そして日本に統制され、元々のグアム文化であるチャモロ文化は衰退の危機にありました。しかし現在では、チャモロ文化を大切にしようとする意識が高まり、街中ではチャモロ語で「こんにちは」という意味の「Haf a dai」という言葉が飛び交っていました。グアム全土にチャモロ語の挨拶が浸透し、チャモロ文化の維持、拡大に力を入れていました。また私たちはチャモロダンスの講義も受けましたが、ほとんどのグアム大学生がこのダンスを踊っていたことから、グアムの人々が自国の文化に誇りを持ち、それを受け継いでいこうとする愛国心の強さを感じることができ

ました。

この他にも様々な講義や、施設見学も行いました。大学付属の農場ではグアムの気候下での農業運営の厳しい現実を学び、第2次世界大戦記念館ではグアムが歩んできた歴史を学び、様々な形でグアム文化を体験することができました。

挑戦することの大切さも学びました。自分の言いたいことが伝えられず、歯痒い思いをしたことが多々ありました。しかしそこで伝えることを諦めずに、違う言い回しを考えたり、ジェスチャーをしたりして、最後まで伝えることが大切だとこの2週間、常に感じていました。積極的にグアム大学生や教授たち、現地の方々と会話をしたことで、英語で気持ちを伝えることが出来ました。これは私の中で、大きな成長だと感じています。伝えられることが増えると、コミュニケーションの幅も広がり、友人もたくさんつくることができました。

日本と異なる文化や言語で、戸惑うことも多々ありましたが、様々な人と積極的に会話をしたこと、そして何よりその会話を心から楽しめたのは、この語学研修に参加したからこそできた貴重な体験です。滞在中には多くの新しい友人もでき、私にとって大きな財産となりました。研修を終えてみて、海外の人と英語でコミュニケーションをとりたいという意欲がより高まりました。



## 語学研修で得たもの



2週間という短い期間でしたが、グアムでのさまざまな経験を通して、たくさんのごとを学び、知りました。

まず、授業では、実際に同じ講義室で講義を受けました。この際、現地の学生は前の席に座り教授の問いかけに自ら進んで発言をしていました。日本の学生は後ろの席を好んで座るため日本との意識の差を痛感しました。講義自体も、日本のように教授が話したことを板書するのではなく、みんなで意見交換しながら進んでいくような講義でした。当然、授業はすべて英語だったので、理解するのにとても苦労しました。単語や文法の意味が分からなかったり、話を理解するのに時間がかかり自分の英語力の低さを実感しました。

“Sustainability”の activity として、グアム大学内の施設を見学し、実際に草むしりなどの体験もしました。太陽光発電で研究施設のほぼ全ての電量を賄えること、学食の紙皿やスプーンがコンポストで土にかえることを知り、環境に寄り添って生きるグアムのスタイルを日本も参考にしていかなければいけないなと感じました。

毎日の授業終了後には、現地の学生と共に伝統的なチャモロダンスやスンバを練習しました。講義中の真面目な一面と違ってみんな生き生きと楽しんでダンスをしているのを見て、様々な場面においてきちんと切り替えができていることに、日本人も見習わなければいけないなと思いました。また、グアムに比べて日本では伝統的なダンスを実際に踊る機会が少ないと感じました。

観光の一貫としてプライベートビーチやショッピングモール、太平洋戦争博物館など様々な施設を訪れ、グアムの流行やグアムの人が思う日本を知るこ

経営システム工学科 2年 河原 彩香

とができました。バス移動の間では普段見ることのできない現地の人の暮らしを車窓から見ることで、観光客が増加し国全体での収入が増加してもグアム内の貧富の格差はいまだに大きく残っていることを知りました。

最後に、この語学研修でさまざまな人と出会い、多くの体験をして、とても大きな刺激を受けました。この2週間で得た知識や知恵をこれからの大学生活や将来に生かしていきたいと思います。

Adios! (さようなら!)



## 美しいグアム



を伝えようと思う。

グアムの人は親切だ。

グアムの学生はドアがあれば必ず開けてくれて、私達を先に通してくれる。学校が終わって帰るときは私たちのバスが去るまで見送りしてくれた。市街地へ行くときは、いつでも一緒に行動した。グアムの地産品が集まる「デデド朝市」にも、早朝から来て、お勧めのものを教えてくれた。授業の間の空き時間や休日を使って、彼はいつでも私たちの側にいてくれた。初めてのグアムで私たちが安心して過ごせたのは彼のおかげだ。

私も彼のように相手のために、考えて行動することを心がけたい。

グアムの人は優しい。

グアムの学生はとても気さくに話しかけてくれる。だから私たちは英語を話す機会がたくさんあった。しかし話すうちに、伝えたいことがうまく表現できずに言葉に詰まることが何度もあった。発音やイントネーションを何度も間違えた。しかし彼女は失敗を決して笑わなかった。私の言葉が出てくるまで待ち、伝えたいことを察して英語を教えてくれた。同様に、彼女が話していることが聞き取れなかった時は何度もゆっくり繰り返したり、簡単な言い回しに直してくれたりした。

何より彼女は話す時、必ず相手の目を見てくれる。そしてとても表情豊かに、ジェスチャーを交え、全身を使って話してくれた。もっとたくさん話したいと強く思った。

私も彼女のように、相手の話をしっかりと聞く姿

機械知能システム学科 3年 佐藤 武尊

勢をもちたい。そして失敗を恐れずに伝えたいことをしっかり伝える姿勢をもって話したい。

グアムの人は美しい。

グアムの人は踊りが大好きだ。グアムの日常に踊りは欠かせないものようだ。そのせいかスタイルがいい人が多いように見えた。しかし美しいのは外見だけではなかった。

ビーチアクティビティの日、私達がビーチに入る前に彼女が海辺で何かを拾っているのに気付いた。よく見ると彼女はガラス片などを拾ってくれていたのだ。アクティビティの最中に私が軽い怪我をした時は、すぐに消毒液と絆創膏で手当してくれた。そうした細かい気配りがとても嬉しかった。私たちのことを考えてくれていることがとても伝わってきた。

私も誰かをもてなす側になった時は、細やかな気配りを忘れずにいたい。

彼女は授業中、前のほうに座り率先して発言している。彼女は1日の授業数×2時間ずつ毎日勉強しているということだった。熱心に勉強に取り組む姿はとても美しいと感じた。

私ももっと勉強に熱心に取り組もうと思った。なにより彼女達と もっと話したいのでまずは英語を頑張ろうと思う。私たちの研修を支えてくれたグアムの美しい友人達に心から感謝する。



## Don't be shy



機械知能システム学科 3年 武井 俊樹

研修の初日、グアム大学の学生とランチをするとき初めて英語を使い長時間の会話をした。彼らは積極的に話しかけてくれ何とか会話出来たが、自分から話すことはほとんど出来ず、自分の英語力不足を痛感した。

グアム大学で受けた講義は、県立大とは異なり、学生と教授が対話をしながら進めていくスタイルで、学生たちの積極的な発言が多くとても楽しく分かりやすかった。講義を聴いた中で印象に残っていることは「自分中心で物事を考えることはせず、自分が一歩外側に出て相手を思うこと」、また「短期的な視点で物事を考えずに長期的・多面的な視点を持って物事を考えること」の重要性について学んだことである。

今回の研修ではグアムの観光についてグループで調べた。グアムを訪れる観光客は日本人の割合がとても多いことや、人気のある観光地や食事について調べていくことで、グアムの文化や歴史についても学ぶことが出来た。また事前に私たちが日本で調べていたことをもとに現地の学生に話を聞くことで、より深く実情を知ることが出来た。グアム大学の学生に聞きたいことが上手く伝わらないこともあったが丁寧に聞いてくれジェスチャーや文字を書いてもらうことで互いに理解できた。またグループのメンバーで集まりひとつの目的を達成することはとても大変であったが、全員と協力することで最終日にプレゼンテーションをすることが出来た。この経験を今後、グループで行う研究や英語のスピーチに活かしていきたい。

グアムではチャモロダンスやココナッツキャンディー作りなど現地の文化を初めて体験する機会も多くあった。日本ではほとんどダンスをしたことがなかったがグアムの伝統的なチャモロダンスを現地の学生たちに教わり一緒に踊り、とても楽しい文化

交流が出来た。

私たちがサポートしてくれたグアム大学のメンバーはどの人も優しく接してくれてとても助かった。私も彼らのように誰にでも優しく接することが出来るようになりたいと思った。

研修を通して何事にも積極的に取り組むグアム大学の学生たちの姿は、内気な性格の自分に大いに刺激を与えてくれた。研修に参加したことで積極性を持つことの重要さに気づき、もっと自分から行動していきたいと思うようになった。

また、滞在中は毎日英語に触れていたため、二週間で聞き取る力がついたと感じた。これからより英語を勉強し、多くの国の人と会話をすることで自分を成長させていきたい。



## 何ができるだろう



電子情報システム学科 3年 森川 歩

私は多くのことを知りたい。私は好奇心の塊である。それが光であろうと闇であろうと知りたい。まだまだ狭い世界しか知らない。だからこの研修を受けることで新しい世界を見たかった。そして、この研修の収穫は期待以上だった。グアム大学の人々は誰でも気さくで、私たちの拙い英語をきちんと聞いてくれた。学外ツアーに自ら帯同してきてくれたりする学生もいた。本当に人のやさしさを感じた2週間だった。もし私が日本にいて留学生が自分のキャンパスに来たとしてもここまでできるだろうか、遠い異郷の地から来た彼らをここまで温かく迎えることができるだろうか疑問に感じるほどだった。

英語で受ける講義は、新鮮なものだった。日本の大学で受ける講義と違いグアム大学の講義は、講師がジェスチャーを交えながら抑揚をつけて話してくれるので普段聞いている授業より自然と引き込まれた。中でも社会学の講義は興味深く、グアムの社会構成について、グローバルな視点から、個人と社会のかかわりについてわかりやすく教えてくれた。例えば、個人間の問題は社会全体の問題と関連しているという点が興味深かった。それは言い換えると私たち個人間の国際交流もまた、国家間の友好に結びつくということでもある。一人一人のつながりが大きなうねりとなり、一つの流れを生むことができると今回の研修で知ることができた。太平洋に浮かぶ小さな島、グアムが観光名所として世界各地からの旅行客を呼び寄せている理由はここにあると思う。それは風光明媚なロケーションや気候だけではなく、グアムの地元住民が私たちに温かく接する一個人のコミュニケーションの賜物である。私たち日本人も見習うべきだと強く感じた。

今回の研修を通じて、「自分は世界に何ができるだろう。」と考えるようになった。いままで日本国内から覗く世界しか見えてこなかったが、外に出たこ

とてまた別の視点を持って世界を見ることができるようになった。社会に貢献したいという強い思いと共に、日本の中の自分ではなく、世界の中の自分という認識が生まれてきたと思う。今回の研修で自分の新しい面を垣間見られたような気がした。

自分にとっては初めての海外ということで、期待と不安が交じり合った旅だった。雨季だったにもかかわらず、我々は天候に恵まれていたと思う。建物に入ると雨が降り、屋外に出ると雨がやむ。それにしてもグアムの天候は移ろい易いものであった。最後の週の数日間は課題に追われて、連日4時間ほどの睡眠だった。でもメンバーをはじめテリー先生やスタッフの猿田さん、グアム大学のみんなが自分の体調を気にかけてくれたし、このメンバーと一緒に勉強や調査、アクティビティができて私は恵まれていたと心から感じた。何も大きな問題も起こさず無事に過ごせたことも素晴らしいと思う。

秋田と本荘、そしてグアム。それぞれキャンパスは違えど、あのメンバーでまた再会したいなと思えた。そんな旅だった。



## グアムで感じたこと



電子情報システム学科 3年 清水 元揮

今回のグアム語学研修の研究テーマは、「グアムの環境保全について」だった。調べてみるとグアムでは、自分が予想していたよりも太陽光発電や風力発電が行われていなかったことに驚いた。島内に太陽光発電は、111世帯しか設置されておらず、余った電力を売買するシステムも整備されていなかった。風力発電は装置がグアムに4基で、日本の一般的な装置の大きさは100メートルぐらいの高さがあるが、グアムの装置はそれよりもかなり小さく、壊れやすいものだった。しかし、グアムの環境保全の取り組みの中には日本で行われていないものがあることが分かった。例えば、シュレッターで細かくした使用済みの紙を畑に敷くことで、その紙が土壌の乾燥防止や過湿防止に役立っている。太陽光発電を使用している世帯数や風力発電の装置の性能を見ると、グアムの環境保全は日本よりも遅れていると感じた。グアムは今よりも太陽光発電を普及させ、性能のよい風力発電を使っていくべきだと思った。

社会学の講義を受けた時は出てくる単語が難しく、理解するのが大変だった。グアム大学の学生は日本の学生と比べて授業態度が良く、彼らの多くが教室の前の席に座って積極的に発言をしていた。日本の大学生もこの授業態度を見習うべきだと思った。日本から留学してきた僕たちのための特別講義は、動画や画像を活用したもので分かりやすかった。一番印象に残った講義は環境についての講義だ。グアムでは、家庭などから出されたごみを燃やさずに埋めて処理しているのが深刻な問題になっている。ごみ処理問題は、土地が狭いグアム島では早急に解決すべき問題であることが分かった。

グアム語学研修は、自分の人生の中でとても大き

な経験になった。研修の初日は、ほとんど話したことのない県大生のルームメイトたちとのいきなりの共同生活で戸惑っていた。けれども、時間が進むにつれて一緒に共同生活している仲間のことが少しずつ分かってきて、辛いと感じていた共同生活も徐々に楽しめるようになってきた。また、グアム大学の学生たちは、周りの環境に馴染むことが出来ずふさぎ込んでいた自分に優しく話しかけてくれた。慣れない環境での生活は、とても苦しく大変なことが多かったが、共同生活する仲間が支えてくれたおかげで乗り越えることが出来た。二週間のグアム生活で経験し、学んだことを今後の生活に活かしたいと思う。



## 語学研修を終えて



今回の語学研修は私にとっていくつかの目的があった。一つ目は、今の自分の英会話力がどれだけあるのか確かめることである。

漠然としているが、私は将来的に日本と海外をつなぐ役割を担う職業に就きたいと思っている。そのためには英語が必要で、過去の渡米生活の経験と日本での勉強の成果を確かめたいと思った。実際に行ってみて、最初に感じたことは日本語のように英語のアウトプットがうまく行かない焦りから、伝えたいことが伝わらない場面が多々あったことである。しかし時間が経つごとに自分が英語を話す時の丁度良い速さを掴めるようになってきた。また、自分のボキャブラリーのなさも痛感した。プレゼンテーションで全く意味の伝わらない単語を使った場面もあった。今後英語を勉強して行く上での絞るべきポイントを見つけることが出来た。二つ目の目的は、前述したように海外と日本をつなげる役割を担うという漠然としている私の将来像を明確化させるためのヒントを見つけることである。グアム大学の農場に行ったときに、植物を栽培するにあたり建築の知識が必要であること、まだまだその農場では施設の改善の余地があるという説明を受けた。その時まで私は、建築関係の職業はヒトを対象としたものしか知らなかったため、新たに視野が広がり感銘を受けた。

これらの目的を達成でき、更に学んだことが他にもある。最も刺激を受けたのは海外の大学生の積極的な学習姿勢である。語学研修では現地の学生の講義を聴講し、またカンパセーションパートナーでは彼らにプレゼンテーションの手伝いをしてもらった。講義では学生の発言や質問が多くあり、実際に社会学の授業では、壇上で発言させてもらった時にはクラスの皆が応えてくれた。またカンパセーションパートナーとコミュニケーションが取れない場面が多々あったにも関わらず最後までよく聞いてくれた。こ

建築環境システム学科 3年 佐藤 智穂

のような姿勢は私たちの大学ではなかなか見られるものではなかったため、羨ましい、見習おうと思った。

グアムは日本と同じ島国であることから、少子高齢化により将来的に外国人労働者の受け入れが進んでいこう日本と、共通するいくつかの課題を抱えていると考えた。将来の日本を支えていく私たちは、日本古来の文化の保護や、多民族が共存する社会構築する点において、グアムを大いに参考にできるのではないだろうか。



## グアムで学んだこと



建築環境システム学科 1年 野原 あかり

私がこの語学研修に参加したきっかけは、自分を変えたいと思ったからです。グアムという異国の地で、日本とは違う文化や習慣、空気を感じることで自分の考えの幅を広げたいと思いました。2週間という期間のなかで、どれだけ多くのことを吸収できるか挑戦してみようと秋田を出発しました。

グアムに行くまでは、今の英語スキルでコミュニケーションがとれるのか不安でしたが、グアム大学の学生たちは私の話を最後まで聞いてくれました。言いたいことが言えないもどかしさはありませんでしたが、それでも相手に伝わったときには感動と同時に達成感を得ることができました。

社会学のレクチャーを受けた際に感じたことは、グアム大学の学生たちは講義中に積極的に発言しているということです。教授の問いかけに対して思ったことを次々に発言し、講義がとても活発でした。秋田県立大学の講義と比較すると、学生たちが自主的に学習しようとする意欲が強い印象を受けました。

プログラムの一環で、現地の小学校に日本文化を教えに行く機会がありました。日本のアニメキャラクターや相撲など、日本文化を知っている生徒が多く驚きました。子供たちの元気で積極的な姿を見ると、自分も自然と笑顔になりました。発言したいことや質問があるときには積極的に手を挙げて授業に参加する姿を見て、小学校の頃から自主性を持って学習しているのだと思いました。

2週間の滞在中、グアムの人々の優しさに何度も助けられました。困っていると手を貸してくれたり、初対面でも手を振ったり挨拶を交わしてくれました。

大学構内でもハローと言ってハイタッチしてくれて、とにかくフレンドリーな学生が多く、彼らの明るさや優しさを何度も感じました。この2週間で多くのことを学び、感じ、体験出来たことで、「もっと英語を勉強して話せるようになりたい」という今後の学習の意欲が湧きました。これからの大学生活では今回学んだことを無駄にしないように、日々の生活の中で生かしていきたいと思います。

また、週末にはビーチに行く機会が何度かありましたが、カヤックやシュノーケルなどを体験することで、グアムの大自然を肌で感じることもできたのもよい思い出の一つです。

最後に、この語学研修に参加して本当に良かったです。



## Learn About Guam

応用生物科学科 3年 和田 望



今回のプログラムで3つのことを学んだ。1つ目は、私たちは皆 gemstone であるということ。gemstone とは、宝石の原石のことで、Sociology で学んだ英単語の一つである。私たちは全員輝きを秘めた原石を持っている。自分の中に眠っている原石に気づき輝かせるためには知らない世界に飛び込み、様々な経験や知識を得ることが必要だ。今回このプログラムに参加して、いろいろな角度から自分の原石を磨くことができたと思う。

2週間もの間、実家を出て生活することが私には初めてのことだった。それも、グアムという初めての土地で、ほとんど初対面の仲間と過ごすことを想像すると、不安でいっぱいだった。しかし、一度この環境に飛び込んで生活してみると、毎日が驚きの連続で、充実した日々だった。私はあまり英語を上手く話せないが、相手に伝えようとする気持ちが大切だと気づいた。言葉が出ず、伝わらなかったことも何度かあったが、相手も私の気持ちを汲み取ろうとしてくれて、コミュニケーションをとることができた。正しい文法や時制を使うことも大切だが、まずは自分の言葉で伝えるという体験をすることが必要である。

2つ目は、研究課題であった観光産業についてである。渡航前にインターネットや雑誌で得たグアムの観光情報とは異なり、実際にグアムに来て初めて知ることができた現実もあった。グアムの市街地にある「チャモロビレッジ」では毎週水曜の夜にマーケットが開かれており、多くの観光客を惹きつけるグアム屈指の観光スポットとして有名だ。そこでは先住民であるチャモロ人の文化、チャモロフードやダンスを体験できる。また同じく人気の観光スポット、タモン湾では美しい海を一望できるホテルが立ち並び、ダイビングを楽しむことも出来る。これらはよく知られるグアムの定番観光スポットである。

一方でグアムはまだ観光地として発展途中であることがわかった。グアム観光政府による Guam Tourism 2020 plan が立てられており、現在の観光客数 130 万人（このうち 70% は日本人）から、2020 年までに 200 万人達成を目指そうとしている。そのために、ホテルの客室数を増やすことや、国際会議にも対応可能なグアム最大規模の設備を完備する5つ星の Dusit thani Hotel を建設するなど、戦略的な計画を実行されていた。グアムにとって観光産業は最大の収入源である。他の南国の観光地との差別化をはかるためにも、グアム特有のチャモロ文化や美しい景観の保持が大切である。

3つ目は、歴史である。アイランドツアーでは、グアムの歴史について学んだ。スペインや日本、アメリカの統治下におかれ、様々な文化が入り交じって現在のグアムが出来た。太平洋戦争初期における日本との戦いでは、チャモロの人々がたくさん犠牲になったことを知った。戦争の歴史を知らなかった恥ずかしさや、その過去があったにも関わらず、私たちを受け入れ、優しくサポートしてくれるグアムの学生に対してのありがたい思いで、いっぱいになった。

以上3つのこと以外にも、共同生活や異文化圏での生活の大変さを学ぶことができた。これら学んだことは、今後の人生を選択していくうえでとても重要な糧となるだろう。



## グアムで見つけた自分

応用生物科学科 3年 渡部 紀幸



2週間が最初はどれだけ長く感じただろう。そのくらい、不安を募らせたままグアムに降り立った。でも実際は、あっという間に終わってしまい、不完全燃焼だった自分を振り返って後悔することも多い。だからここにこうして、グアムでの後悔を書くことで、これからの生活で課題としたい。それと同時に、グアムで学んできたことを大切にしていきたい。

そもそもこのプログラムに参加した目的は、海外の人と交流し、自分にはない視点に触れることで、視野を広げることだった。実際には現地の人たちから得たものよりも、一緒に秋田から旅立った仲間たちから得たものの方が多かった。でもそれは、私自身が現地の学生とあまり積極的にコミュニケーションをとれなかったせいでもある。それが私にとっての一番の後悔でもあるが、その原因に気付くのが遅すぎた。ただ英語で話す勇気がなかったわけではなく、自分の持つ狭い視野が世界も狭くしていたのだ。自分には大した趣味もないため、相手に趣味を聞いたところで自分が答えられないのが目に見えてしまい、そんなささいな会話すら切り出せなかったことが、今思うととても情けない。だからこれからは、社会から目を背けずに、自分の観点からいろんなことを考えられるようにして、広い視野を持てるようになりたい。そしていろんな人と様々な話をできるようにしていきたい。

また今回、同じ時を過ごした仲間たちからは、様々なことを考えさせられ、私の視野を広げる最も大きなきっかけとなった。メンバーたちは皆それぞれ違った視点や感性を持ち、行動力も私とはまるで違った。自分に無いものを皆それぞれが持っていて、おかげで毎日のように新しい刺激を受けることができた。滞在中にはこれらの刺激を自分の中でうまく吸収することはできなかったが、自分に必要なものを少しずつ、この旅の中で得たものから拾い集めていけた

らと思う。

さらに、もう一つ私の視野を広げるきっかけとなったのが、社会学の授業だった。社会学のJohnson教授によれば、私たちは無限の可能性を秘めた宝石だという。それを聞いて私はようやく、自分の可能性を限りなく0に近づけているのは今の自分自身であり、可能性が広がるかどうかはこれからの自分次第なのだと気付いた。今自分が何の原石を持っているのかもわからないが、これからはさまざまなことに向き合うことで、自分が持つ原石を発掘していきたい。

最後に、もっと英語を身に着け、世界の様々な人と繋がれたら、自分の世界はどんなに広がることだろうと胸を膨らませることができたこの研修は、本当に貴重な経験であった。この研修で出会ったすべての人、自分やこの研修を支えてくれたすべての人に感謝しています。

本当にありがとうございました。



## グアムで果たした夢と見た夢

応用生物科学科 2年 高橋 悠斗



私にはいくつかの夢があります。そのひとつは、海外で英語を使い現地の人と話すことです。この夢を抱いたのは私がまだ5歳の頃でした。当時、近所にはフィリピン人の女性が住んでおり、その方を通じて英語という言語があること、その有用性、そして世界の広さを知りました。当時の衝撃は幼子心ながら、あるいは幼かったからこそ凄まじく、いつか必ず海外へ行き英語を使うと心に決めたのでした。それから約15年の長い年月を経て、ついにその夢が実現したのです。2週間に及ぶ海外での英語生活は、ただただ楽しかったとしか書き表しようがありません。それは自分がより正確に書き表せる言葉を知らないからなのかもしれませんし、細かいことを抜きにひたすら楽しかったからなのかもしれません。足りない英語力を補うため常に電子辞書を持ち歩き、その都度英単語や意味を確認しながらの英会話は時として非常に辛いものでしたが、それでも自分が異国の地で英語を使って会話していることを常に感じられ、言い表しようのない喜びに2週間も浸かることのできた日々は、やはり、ただただ楽しかったと、そう思うのです。

もう一つ、将来の夢について書き記したいと思います。これもまた幼少からの夢であり、いつか科学者になると幼心に誓い、現在私は大学で様々な知識を学んでいます。科学者となるには専門知識だけでなく、英語力や時としてコミュニケーション力等が必要とされるのではないかと思います。ではどれだけの英語力が必要なのか、自分に足りないものは何なのか。このプログラムはそれらを肌で理解できるまたとない機会であろうと思い、応募用紙を手にとったのです。そして、おそらくその足りないものを知った時、私は強いショックを受けるだろうと予想していました。それは私が加わろうとしている世界の厳しさをありありと見せつけるに違いない、あ

る種の痛みとなって自分に取り込まれるだろうと考えていたのです。そして予想通り、あるいはそれ以上に結果は凄まじく、愕然とするものでした。Dr. Kirk Johnson による、グアム大学の1年生が受講している Sociology の講義を聴講させていただいたのですが、Sociology の専門用語はおろか、それ以外の単語すらほとんど理解できず、英語で行われる講義を理解するにはどれだけの語彙力が必要なのかを痛感させられました。グループリサーチでは改めてディスカッションの難しさを認識し、事前準備の大切さを身を持って学びました。この二週間での出来事は、ここに全て書き出すにはあまりに数が多く、詳細に語るには字数が足りなさすぎるくらい厳しく、痛い、しかし同時に何ものにも代えがたい価値ある経験となりました。

ひとつの夢が叶い、別の夢が鮮明に見え始め、新たな課題を突き付けてくる。そんな体験ができたのは、おそらくこれが人生で初めてのことです。最後に、滞在中私たちをサポートしてくれたグアム大学の学生方、特に Angelenne、そして Dr. Kirk Johnson に感謝をこめて、筆を置こうと思います。



## Study tour で得たもの



アグリビジネス学科 3年 伊藤 久美子

私は、アグリビジネス学科に在籍し、大規模農業について学んでいる。そのため、今回の study tour では海外の発展した大規模農業について学び、自分の研究や日本の農業に生かしたいと思い、このプログラムに参加した。また、英語圏で自分の英語がどの程度通じるのかを試したかったということや英語のスキルを向上させたいと思ったのも参加を決めた理由のひとつである。実際に参加してみたら私が想像していたこととはまるで違っていて多くの発見があった。

まず、グアムでは食料品の約90%を輸入に頼っているため、スーパーなどでは全ての商品が日本よりも全体的に割高であった。販売している食料品はどれも大容量であることに驚いた。また、90%を輸入に頼っているためレタスやキャベツなどの野菜は常に入荷しているとは限らなかった。さらに、卵も輸入しているものは、店頭に並ぶまでに2週間かかると知って、調理の際きちんと火を通さないと心配であった。日本のスーパーでは肉を冷凍で売っているところをあまり見たことがなかったが、グアムでは冷凍で売られている光景がよく見られた。日本とグアムのスーパーに並ぶ商品の違いを目の当たりにしたのは興味深い発見のひとつだった。

次に、グアムの気候は通年を通して高温であるという特徴を持っていることから、農業には適していないことが分かった。そのため、グアムでは、環境に適したチリペッパーやバナナなどを栽培することや、土が乾燥しないように新聞紙を土の上にかけて土壌中の水分の蒸発を防ぐなどの工夫が凝らされていた。

グアムはアメリカ領土であることから、アメリカ本土のように大規模農業が進んでいると予想していたが実際は違い、私の大規模農業について学びたいという目的は叶わなかった。しかし、グアムでは、気候に即した農業が確立されておりそれを学ぶこと

ができてよかったと思う。

初めて英語圏に来て、初日に UOG (グアム大学) の学生たちと話した時に相手の言っていることが理解できずに会話が成り立たず、辛い時間を過ごした。しかし、UOG の講義や現地の方の話を理解したいと思い、電子辞書を使って調べたり、ジェスチャーを交えながら会話をしたり自分なりに工夫して人と対話をするようになった。その甲斐があって、英語が前よりも聞き取れるようになると、英語での授業や会話が楽しいと思えた。また、UOG の学生たちに自分の聞きたいことや話したいことが少しずつ伝わるようになってきて英語のスキルが向上したと感じた。

想像とは違ったが語学研修での私の目的は達成できたといえると思う。さらには、UOG で知り合った友達や、貴重な講義、グアムでの思い出など本当にかげがえのないものも手に入れることができたと思う。私は、この語学研修で得たことを一生忘れない。そして最後にこの study tour でお世話になった全ての方に感謝の言葉を申し上げます。



## グアム短期留学プログラムを終えて

アグリビジネス学科 2年 佐藤 優理子



私は英語力向上と日本以外の植生、気候を体感することを目的として14日間の語学研修プログラムに参加した。

プログラムではグアム大学で英語の講義を受け、大学の方々と交流し、グアム島について多くのことを学んだ。

海外へ行ってみたいと思い始めたのは中学生の頃だったろうか、英語の授業を通して異文化に触れ、日本での当たり前がそうでない生活、植生、気候に対して興味を持っていた。大学に入ってから英語で考え英語で話す、語学としての英語へ関心をもつようになり、海外旅行への憧れを現実にするのを考えた。このプログラムでは私が想像していた以上のものに出会い、たくさんの収穫を得た。

現地で交わされている日常の英会話は逐一日本語に変換するのを待ってくれない。私にとってそれはあまりにも滑らかで速すぎたのである。それでも彼らが私達にも理解できるようにゆっくりと簡単な単語を使っていることがよくわかり、自分の未熟さを痛感した。日本にいる間、私が触れていた英語は教材か字幕付きの映画に限られていた。そこで使われている英語は誰にでも聞き取りやすく、そして綺麗な文章で紡がれているものばかりである。

一方、私が目の当たりにした英語は、実に生々しかった。しばしば私達がするように、彼らも会話の途中で言葉に詰まって言い換えを求められたり、私達に難しいと思った単語は言い換えてくれたりした。これまでに私が触れてきた英語は聞き取ることができなくても問題なかったが、研修中ほぼすべての指示が英語で出されるため、聞き逃がせば進行についていくのが困難になってしまう。全神経を相手の言葉に向けて、必要な情報を受け取るように努めた。

最も印象深かったのが The Pacific War Museum、太平洋戦争博物館の見学である。グアムは日本に占領されていた過去をもっている。よく

知られているように、日本のとった先住民への扱いは酷く、グアムもまたその例外ではなかった。強制的に日本語教育を行い、居住地域を奪った。博物館ではアメリカがグアムを奪還する様子を、日本国内ではなかなか知る機会のない「勝利」の形で文字、写真、映像で紹介していた。自分の住む国を別の時代の、別の視点から見ることでこれまでの固定観念を取り払う一助となった。

14日間とは、ややもすればぼーっとしている間に過ぎ去ってしまう時間である。実際、私の夏休みはほとんどがその塊であった。一日一日の長さは同じでも、振り返った時にたくさんの思い出があるほど、それは充実した時間であったと言えると思う。そしてこの14日間はこれまでのどんな時間よりも長く感じられた。グアム大学の方々はもちろん、グアムの先住民チャモロ人との交流、ビーチ、ショッピング。すべてが初めてで、濃密なものだった。たくさんの人に出会い、たくさんの人と話し、過ごした時間はかけがえのない経験となった。もしまたこのような機会が得られるのであれば、率先して参加したい。



## グアム語学研修を終えて

アグリビジネス学科 2年 鈴木 智帆



私がこのグアム語学研修に参加したのは、一度も英語圏の国に行ったことがなかったので、良い経験になると思ったからだ。また、私は初対面の人と話すのが苦手なので、自分に度胸をつけさせる良い機会だと思った。到着して最初の数日は、ただ海外に来たことが楽しくて観光気分だったが、日が経って課題に追われるうちにあっという間に2週間が経ってしまった。

グアム大学の授業は分からない単語が出てくるたびに辞書で意味を調べるとというのが自分のスタイルになっていた。力がまだまだ足りないと感じさせられる毎日だった。しかし、それと同時に英語の授業を自力で理解できるようになったら、今と全く違う世界が見られると思った。また、グアムの学生たちとのコミュニケーションは、正しい文法や難しい単語を使うことよりも、気持ちを伝えたいという思いが大切だと気付かされた。簡単な単語を並べるだけでも、ジェスチャーなどを使うことによってコミュニケーションをとる事ができて嬉しかった。また、ダンスや歌は言葉を使わなくてもお互いに楽しい時間を共有できると強く感じた。2週間の語学研修で一番印象に残っているのは、小学校を訪問して日本文化の紹介をしたことだ。日本の伝統的な遊びである独楽やけん玉、折り紙あそびなどで、現地の小学生と交流した。学校を訪問する前は楽しんでくれるか不安だったが、実際に行ってみると小学生は私たちを大歓迎してくれて、熱心に授業に参加してくれてうれしかった。

グループのResearchでは、グアムの持続的発展 (Island Sustainability) について環境の面から調査した。現地のリサイクルや使用エネルギーなどについて調べて発表した。

また、この2週間は私にとって初めての共同生活でもあった。グアム語学研修で会うまで全く知らなかった人と生活することに、始めは不安が大き

かったが、プログラムが始まるととても楽しい2週間だった。共同生活は我慢する事も多いけれど、朝から夜眠るまでずっと友達といることはこれから先もなかなかできない事なので、とてもよい社会勉強になった。今までほとんど話したことがなかった人と話したり、共同研究や、グアムの自然を共に体験できたことは大学生活の中で大きな宝となった。この素晴らしい体験は決して忘れられない思い出となった。

この語学研修では、英語力の向上だけではなく人との付き合いや、我慢すること、コミュニケーションや友達を思いやることの大切さなど様々なことを学んだ。それは、これからの私の人生にとっても大きな糧になると思う。



## 2014 “Guam English Adventure Program”



Associate Professor Terri Lee Nagahashi

Research and Education Center for Comprehensive Science (RECCS)

This year was the third time that APU students participated in the University of Guam’s “English Adventure Program,” which has been carefully customized to meet the needs and interests of our students. Over the years, this two-week program has evolved to provide a balanced schedule of English as a Second Language (ESL) classes, academic lectures, cultural activities,

educational tours, and conversation time with student members of the university’s International Friendship Club (IFC). APU students who take advantage of this unique opportunity to study and experience life in Guam come away with a broader worldview, a better understanding of themselves and others, and a greater desire to improve their English communication skills.

## とても充実したグアム大学語学研修



総合科学教育研究センター 教授 岡崎 弘信

今回、私が引率を担当させていただいたのは前半の1週間のみであるが、日頃、授業では見られない(?)学生たちの一生懸命で生き生きとした姿を見ることができ、とても感謝している。と同時に、後輩たちにも、是非、このような経験をさせてあげたいと心の底から感じている。現地での研修の様子は参加者自身の報告で詳細に述べられるであろうから、ここでは、研修の前・後について触れておきたい。

グアムでの研修期間は2週間だが、広い意味での研修は選考の時点から始まっている。まず、申し込み時に application を英語で書くことが要求されるが、普段まとまった英語を書くことに慣れていない学生にはかなりの負荷である。また面接に進むと、応募者全員に英語による自己アピールが課される。面接も研修の一部なのだ。こうして選抜されたメンバーを待っているのが2回の事前指導である。1回目は英語による自己紹介、研修日程の確認と現

地での仕事の割当てなど盛りだくさん。そして2回目の事前指導に向けて、課題が出される。“Island Sustainability” など4つの research topics から自分が希望する研究対象を選び、それについて事前学習を行うのである。研究グループは秋田 C と本荘 C の混成なので準備は大変だが、この活動により研修前にお互いを知ることができ、現地情報も事前にインプットできるので、グアムでの滞在期間を無駄なく有効に使うことが可能になるのである。

研修終了後には活動報告会での報告が義務付けられているが、ここで使用されるプレゼンテーションは現地でもとめた英語のレポートをベースに再構成したものである。

以上のように、グアム大学語学研修は事前・事後も含めた包括的な語学研修であり、楽しいだけでなく学習面においても、とても充実したプログラムである。できるだけ多くの後輩たちにも参加してもらいものだ。

## ユニークなグアム研修に参加して

生物資源科学部 教授 福島 淳



今回、私はグアム大学における語学研修に引率教員として初めて参加した。本プログラムの目的の一つは英語に慣れることであったと思う。その目的のために学生たちは、午前中は主にグアム大学において英語での講義を受け、午後は教室の外へ出て様々な活動に参加した。それらの中にはグアムについて学ぶプログラムもあり、その際にはグアム大学に所属する大学生と討論をしながら進めるという内容も含まれていた。グアムで何人もの関係者に言われたことは、本学のプログラムは大変ユニークで他の日本の大学の研修プログラムとはかなり違うということであった。その理由は、教室内でのレクチャーだけでなく、野外での様々な活動が組み合わされているという事である。例えば、グアムの小学校を訪問して授業の一部を学生が担当するプログラムがあった。日本から様々な道具を持参してそれ

で遊びながら日本の伝統文化、折り紙や独楽などを体験してもらおうという物で、英語での説明を学生がこなし、そのあとに生徒の中に入り込んで指導するという内容であった。子供たちは非常に好奇心が旺盛で直ぐに遊び方を覚えるという事もあったが、その中で秩序を持って生徒や先生とコミュニケーションを取っていた。このプログラムはスケジュールの終盤にあったが、この時点でもこれほどうまく進められるというのは驚きであった。私の心配をよそに、当事者の学生たちは悠々とこのプログラムをこなし、日本で面接やガイダンスをした時とは全く別人に見えたものである。

このように、プログラムの最後ではそれぞれの学生が全く違った自信に満ちた表情になっていた事が、今回のプログラムの成功を物語っている。参加した学生がこの経験を今後どのように生かしていくかを楽しみに見守って行きたいと思う。

## 初めての留学経験

国際交流室 猿田 直子



研修に参加した学生の大半は初めての留学です。渡航にあたり、パスポート申請の仕方、海外旅行保険の加入について、外貨両替の方法や、機内持ち込み荷物についてなど、「海外渡航の基礎」から指導しました。事前準備では、留学前の学生に伝えるべき必須事項、保護者対応の基礎的な事柄、大学事務局の危機管理対策などを整える過程で、私自身も「大学主催のプログラムで学生を海外へ送り出すこと」の責任についての自覚を促されました。それは、これまで携わったことのある、教員・研究員が自身の調査・研究や学会参加目的で渡航する際の「海外出張手配」業務とは全く異なるものであることを痛感した次第です。準備期間中は、プログラム主催者という責任ある立場の一端を担う者として、適切な対応を求めら

れることの多い数ヶ月でした。

現地に入ってから、慣れない英語環境下で学習し、共同生活を送る学生たち全員の体調に目を配り、心身ともに健康に過ごしているか注意深く見守りました。最初は少しの不安や戸惑いを感じていた彼らが、日を重ねるごとに生き生きと自信に満ちた顔つきになり、伝わらない英語に四苦八苦し、毎日の課題に追われながらも、グアム大学の学生たちとの協働作業を通じて友情を育み、成長していく時間を共有できたことは大変うれしいことでした。

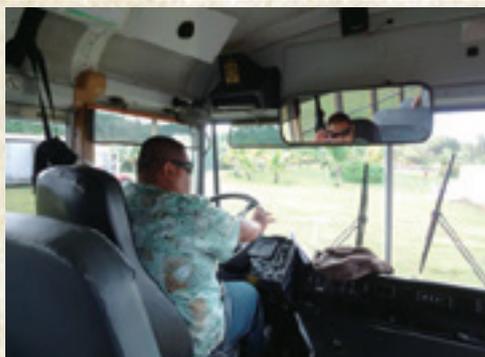
わずか2週間の留学期間ではありましたが、この初めての留学経験が、今後の彼らに与えるものは計り知れないことでしょう。世界の大きさを知り、視野を広く持つことの大切さに気づき、大いに活躍してほしいと思います。



2014/9/7-9/21  
English Adventure  
Program







編集・発行  
秋田県立大学 国際交流室  
2015年3月